

一般社団法人 八幡市体育協会

50年のあゆみ

一般社団法人 八幡市体育協会

50年のあゆみ

はじめに

昭和39年（1964）の東京オリンピックの成功により、あらゆるところで各種スポーツが国民の日常の社会生活に入り込んできたように思える。わが八幡町内でも小中学校のグラウンドや体育館を利用してのスポーツを楽しむ、特に、社会人軟式野球や家庭婦人のバレーボールが冠大会を開催し、また剣道や柔道の指導者が少年達を指導、このように多彩な取り組みが始まっている。

昭和53年頃から始まった八幡町長杯社会人軟式野球大会はこの代表的な取り組みでした。市内の企業や地域、町内会、各学校の卒業生同士といったチームが増え、町長杯にエントリー、それも男山中学校のグラウンド1面のみでの使用でかなりの長期間の日程で大会が開催されていました。

この八幡町長杯社会人軟式野球大会で16の町民のチームが覇を競い合っていたそうです。今も町長杯は市長杯に名を変えて引き続き開催され、他の競技種目団体によき影響を及ぼしている。

現八幡市体育協会傘下での一番歴史のある競技団体、八幡市軟式野球連盟が八幡市長旗の第10回大会を記念して発行された記念誌に、八幡市体育振興会設立のきっかけになる文章が記されていました。

「八幡町軟式野球連盟こそは、町民スポーツ団体として大きな組織となった体育振興会の源流であり、かつ活力源でもある。」

これは第10回八幡市長旗争奪軟式野球大会の記念誌に掲載されている初代理事長の回顧録の一部です。

この一文にあるように八幡町民に、八幡町の社会体育に、町民スポーツ団体に、大きな歴史を生み出した。この大きな歴史、言い換えれば各種体育団体を統括する体育振興会を生み出し、現体育協会の50周年を迎える、正に源流です。この母体になったのがこの軟式野球連盟、家庭婦人バレーボールの各チーム、卓球連盟、剣道連盟等が支援されてきたものです。が、町当局や教育委員会の支援をされてきた、いわゆる行政主導の大会のようでありました。



・昭和43年（1968） 八幡町体育振興会創設

当時の八幡町の人口は21,604人 男10,776人 女10,828人 世帯数5,095世帯。
八幡町の拠点である役所、当時の役場は現在の八幡図書館周辺にありました。教育施設は、南ヶ丘保育園・吉野保育園・八幡保育園・西遊寺保育園の4園、幼稚園は八幡幼稚園・八幡第2幼稚園、小学校は八幡小学校・都々城小学校・有智郷小学校そして中学校は男山中学校の1校のみでありました。

この時期、八幡町民のスポーツの核となる八幡町体育振興会が 社会人野球連盟 柔道連盟 卓球連盟 テニス連盟 剣道連盟 ソフトボール連盟そして家庭婦人バレーボールの各チームが加盟して組織化され発足、創設され、初代会長に 奥田 紀氏がご就任されました。

八幡町の花「さつき」制定



八幡町の木「くすのぎ」制定



・昭和44年（1969）

農村婦人バレーボール大会が農業を主とする奥様方が農閑期を利用して男山中学校体育館で開催、第3区地域の家庭婦人を中心に約200名参加されていました。

壮年体カテスト



八幡町住民体育祭



八幡町住民憲章制定



・昭和45年（1970）

少年スポーツ教室が教育委員会主導で開催され、多くの児童達が各種スポーツに興じていました。

・昭和47年（1972）

体育振興会主催の「スポーツカーニバル」が男山中学校体育館で開催され、剣道、卓球、ママさんバレーボールなどの競技が行われました。また、町の「広報やわた」に「体育振興会は、スポーツを愛好するみんなの組織です。一家そろって入りましよう。」といった記事にあわせてこの体育振興会の機構図も示され、職域、地区体育振

興会、婦人部、青少年部の4つの部門があり、この下部組織に、バレーボール、剣道、卓球、テニス、軟式野球、歩こう会、野外活動、水泳（夏季）、スキー教室（1月）と大きく取り上げられていました。更に、同広報誌には、「あなたもどうぞ、ママさんバレーに参加して」、と体育振興会傘下の各地域のママさんバレーボールチームに参加してください。との記事も掲載されていました。

・昭和50年（1975）

八幡町体育振興会2代会長に平田 日出也氏が就任
地域、職場、PTAなどで行われていた家庭婦人バレーボールが、この年に正式に八幡町家庭婦人バレーボール連盟として発足いたしました。

・昭和52年（1977）

11月1日に市制施行「八幡市」となる。

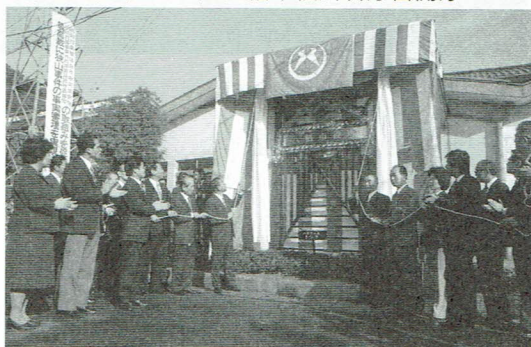
八幡市の人口は52,795人 男28,973人 女28,822人 世帯数17,082世帯

八幡市制に伴い八幡町体育振興会が八幡市体育振興会になりました。

八幡市体育振興会3代会長に松田 豊次氏が就任。

八幡市体育振興会に八幡市空手道連盟が加盟化されました。

昭和53年（1978）八幡市役所新庁舎開庁



昭和54年（1979）新春のつどい



・昭和55年（1980）

八幡市体育振興会4代会長に松井 茂雄氏が就任

・昭和56年（1981）

「広報やわた」に八幡市体育振興会が特集記事として取り上げられました。

体育振興会加入団体 ①少年野球連盟 ②卓球連盟 ③男子バレーボール連盟 ④家庭婦人バレーボール連盟 ⑤硬式庭球連盟 ⑥剣道連盟 ⑦柔道連盟 ⑧一般男子ソフトボール連盟 ⑨日本拳法八幡市民拳法の会 ⑩連合婦人会 ⑪老人クラブ連合会 スポーツ振興部あるこう会 ⑫軟式野球連盟 ⑬体操連盟（昭和59年に正式加盟）

・昭和59年（1984）

八幡市体育振興会5代会長に赤川 行男氏就任

SFA運動（Sport For Allスポーツ フォア オール）、いわゆるみんなのスポーツ運動。全ての市民がスポーツを楽しみ交流、よき汗かきをする、そしてこのスポーツ参加者を支援する。このSFA運動を提唱、以後、数年ごとにこれを八幡市体育協会本部の主たる取り組みとなる。

八幡市体育振興会に婦人会体育部、健康体操連盟が加盟

・昭和60年（1985）

八幡市民総合体育大会が全団体に冠大会の最大大会として開催、更にこの総合開会式が協会傘下全団体が参加して開催されました。



公益財団法人京都府体育協会に八幡市体育振興会として加盟

・昭和61年（1986）

八幡市スポーツ少年団本部発足

本部長 赤川 行男

副本部長 森下 善三 野村 和美

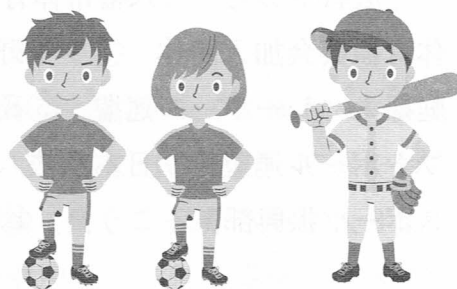
傘下種目別団4団 指導者36名 団員男263名 女74名 計337名

クリーン大作戦

八幡市駅周辺～八幡市役所

八幡市ロードレース大会

男山東中学校開校



・昭和62年（1987）

八幡市体育振興会に八幡市ゲートボール連合が加盟

八幡市スポーツ少年団が日本・京都府スポーツ少年団に登録

ソフトボール・サッカー・少年野球・バレーボール・笹谷アタッカーズ・ソフト
テニス・空手道・剣心会・柔道・古武道・バトン・少林寺拳法・ハンドボール・
硬式テニス・剣友会・リトルシニアの各種目の下に40単位団

団員1,093名 指導者248名登録。

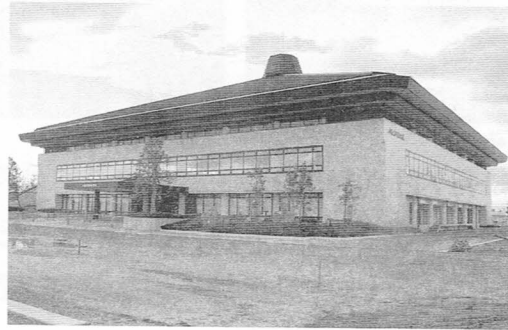
八幡市スポーツ少年団の本部長 赤川 行男 副本部長 野村 和美 森 政雄
藤井 均 古川 善夫が就任

市民スポーツ公園・市民体育館完成 男山レクリエーションセンター完成

男山レクリエーションセンター



市民スポーツ公園・市民体育館



全国家庭婦人バレー男山エースクラブ優勝



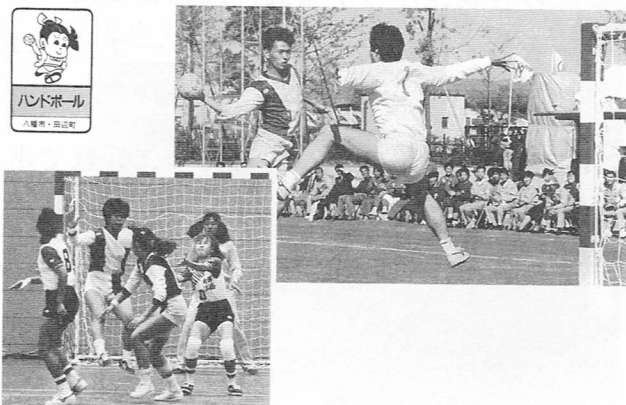
1089 日 平 5 200

・昭和63年（1988）

八幡市体育振興会6代会長に岩成 功氏が就任

京都国体 八幡市の会場ではハンドボール競技 デモンストレーション競技綱引き
を担当。

京都国体八幡市会場《ハンドボール競技》



京都国体八幡市会場 デモンストレーション競技《綱引き》



・八幡市スポーツ少年団 夏まつり



・昭和64年1月7日 (1989)

天皇陛下崩御 「一つの時代は終わった」 新元号「平成」

・平成元年 (1989)

八幡市体育振興会に地域体育振興会 橋本 内里 吉井松里加入
京都府民総合体育大会初参加
スポ少新春のつどい駅伝大会 スポ少指導者協議会発足 第1回山城ブロック交流フェスタ太陽が丘Gで開催

・平成2年 (1990)

八幡市スポーツ少年団指導者・母集団・関係者交流懇親会 国際ソロプチミストより「八幡市スポーツ少年団旗」贈呈を受ける

・平成3年 (1991)

京都府民総体総合9位 八幡市体育振興会参加の各競技団体が奮闘、入賞まで後一步
八幡市スポーツ少年団5周年記念講演会 講師衣笠 祥雄氏 (元広島カープ、プロ野球の鉄人といわれた)
日独スポーツ少年団同時交流 ドイツ少年団員13名 団長1名が八幡市民のご好意でホームステイ 八幡市で受け入れ
男山文化ホール・図書館開館

日独スポーツ少年団



・平成4年（1992）

八幡市体育振興会7代会長に川越 一郎氏が就任

八幡市体育振興会に地域体育振興会上区 中区 美濃山 ABCD棟が加入

八幡市スポーツ少年団指導者・母集団・関係者交流懇親会でオークションを、この売上金で「スポーツ振興基金」 夏まつり 日本スポーツ少年団30周年を記念して地球30周チャレンジ大会 市内をリレーして八幡小学校に到着

・平成7年（1995）

第17回府民総体総合9位 入賞まであと一步

市民スポーツ公園ナイター設備完成

八幡市市民スポーツ公園ナイター設備完成



阪神大震災チャリティバザー 八幡市スポーツ少年団 指導者・母集団懇親会



・平成8年（1996）

市民マラソン大会開催（川口グラウンド発着）

八幡市体育振興会が体育協会への移行検討委員会設置

全国スポーツ少年交流大会丹波自然運動公園で開催

赤川八幡市本部長がこの大会の実行委員長に就任

八幡市民マラソン大会



全国高校総体ハンドボール競技開催



・平成9年（1997）

八幡市体育協会創設

八幡市体育振興会を発展的改組 初代会長に 小島 広政氏就任

「青少年の健全育成のためのスポーツ」「地域スポーツの振興」「競技力の向上」
「市民誰もが参加できるレクリエーション活動」「学・社一体となったスポーツ活動」を柱に八幡市のスポーツ界が充実・発展すること。これが設立準備委員会の総意でありました。これが引き継がれているか、改めて検証する必要がある。

・平成10年（1998）

新春のつどい・ウオークラリー開催

松花堂庭園発着～石清水八幡宮～さつきグラウンド～さくら公園経由

八幡市スポーツ少年団 日独同時交流八幡市で2回目の受け入れ 団長1・団員13名
が市民宅にホームステイ

・平成11年（1999）

八幡市スポーツ少年団 大運動会開催

全団員を各小学校区に分け、綱引き・障害物リレー等で対抗戦



・平成12年（2000）

市民マラソン大会の川口グラウンド発着を今年度限りとする。

・平成13年（2001）

八幡市民マラソン大会の発着を市民グラウンドに。

参加者多数になり、5km・10 km・ハーフマラソンは木津川サイクリングロード、2・3kmと親子の部を工業団地周辺周回に。

第15回 八幡市民総合体育大会



・平成14年（2002）

「新春のつどい・ウォークラリー&うす茶で一服」 市体育協会、市文化協会共催
スポ少 子どもスポーツフェスタ開催 大運動会、縄跳び大会を一本化

・平成15年（2003）

八幡市スポーツ少年団 野村 和美氏本部長に就任
副本部長 大久保 勲一 松本益千嘉 細川 秀臣
種目別団体

サッカー・少年野球・ソフトテニス・空手道・尚武館・柔道・バトン・

少林寺拳法・ハンドボール・硬式テニス・剣友会・リトルシニア・レスリング

23単位団 団員706名 指導者253名登録

新消防庁舎・市民防災広場開設

・平成16年（2004）

国体近畿ブロック大会ハンドボール競技を八幡市が担当開催

八幡市スポーツ少年団 古紙回収を始める 八幡ライオンズクラブよりハンドマイク10本寄贈を受ける

・平成17年（2005）

日独同時スポーツ少年団交流でリーダー1名ドイツニーダーザクセンに派遣

・平成18年（2006）

京都府民総体サッカー競技決勝大会を八幡市が会場に。この大会で八幡市が堂々の優勝

八幡市スポーツ少年団 日独同時交流団員6名 団長1名3回目の八幡市で受け入れ
八幡市スポーツ少年団 創設20周年記念実行委員会立ち上げ。 リーダー会発足
指定管理者制度導入、公園施設事業団も指定管理者に。

・平成19年（2007）

八幡市スポーツ少年団 創設20周年記念事業を開催

ミュージカル「八幡市四季彩 春夏秋冬」

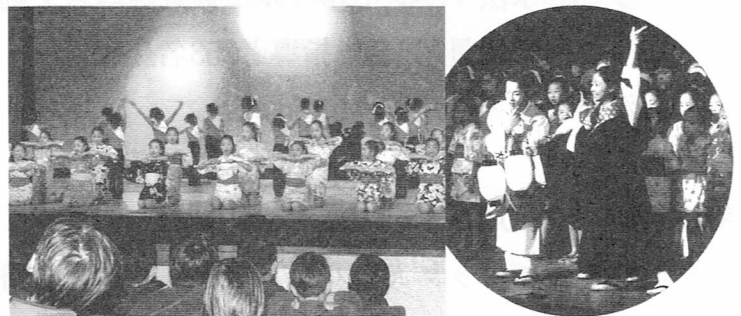
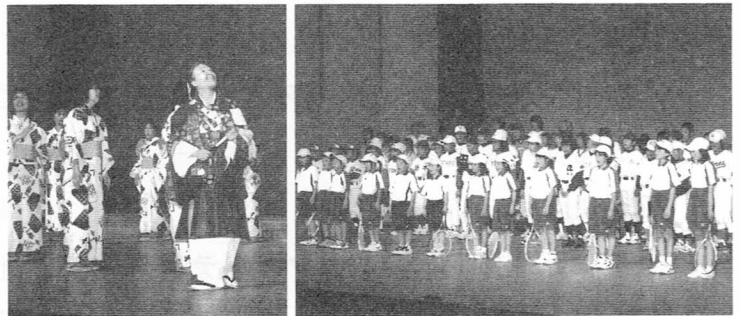
寛永の三筆「松花堂 昭乗・本阿弥 光悦・近衛 信伊」がタイムスリップして、
現在の八幡市に舞い降り、スポーツ少年団に出会い、貴重な数々の体験をする。

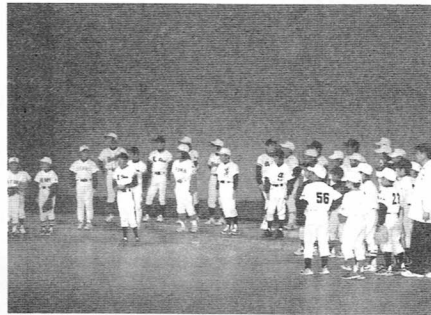
作・演出 片岡 伸介 ナレーター 小林 恵子

日本体育協会のスポーツ少年団将来像検討プロジェクトに、京都府スポーツ少年団
副本部長赤川行男氏が委員として、渋谷区の岸記念体育館の日本体育協会に出席

市制施行30周年記念式典

ミュージカルアラカルト





・平成20年（2008）

競技スポーツ交流会グラウンドゴルフ大会

日本スポーツ少年団指導者全国研究大会に、京都府スポーツ少年団副本部長赤川行男氏が東京日比谷公会堂で開催されパネラーとして出席

八幡市スポーツ少年団指導者母集団研修会「ジュニアスポーツの食生活の基本」

講師 大和学園 木村 祐子氏

・平成21年（2009）

八幡市体育協会のレクリエーション連合 市民合同交流会開催

八幡市スポーツ少年団 指導者・育成会講習会 ボールゲーム「パルシューレ」

・平成22年（2010）

八幡市体育協会競技スポーツ交流会開催

八幡市スポーツ少年団 育成母集団研修会「元気は食から」

講師 栄養士 塩川 美智子氏

・平成23年（2011）

八幡市スポーツ少年団 指導者講習会「指導者の役割・求められる指導者像」
講師 吉田 隆氏

・平成24年（2012）

八幡市スポーツ少年団 八幡市スポーツ少年団本部長に松本 益千嘉氏就任

・平成25年（2013）

八幡市体育協会ニュースポーツカローリング交流会開催

・平成26年（2014）

八幡市体育協会が法人化 一般社団法人になる。

会長 河原崎 保 副会長 近藤 赳夫 松本 益千嘉 阪下 泰男就任

・平成27年（2015）

八幡市体育協会レクリエーション連合同交流会開催

・平成28年（2016）

八幡市長に堀口 文昭氏就任

石清水八幡宮国宝指定

石清水八幡宮本社 10棟

本殿（内殿及び外殿） 摂社武内社本殿

瑞籬（門2所及び閤伽棚付属） 幣殿及び舞殿

楼門 東門 西門 廻廊3棟（楼門東門間、

楼門西門間、背面） 附：棟札3枚

石清水八幡宮国宝指定



・平成29年（2017）

一般社団法人八幡市体育協会創立50周年記念事業の記念事業プロジェクトチームが編成され「スポーツYear・八幡」を冠とする。

総括 河原崎会長

実行委員長 松本副会長 副実行委員長 近藤副会長 冠大会・記念式典会場の構成団体のPR 阪下副会長 総務 粟井・野村常務理事 祝賀会 藤原・江本

式典・祝賀会・講演会・スポ少・バザー・記念誌・冠大会・総合体育大会総合開会式の各部門の委員が決定、具体的な取り組みに入る。

八幡市の人口は71,815人 男34,978人 女36,837人 世帯数32,576世帯

おわりに

出会いがこの物語の始まりである。

スポーツを社会生活の流れの中に求める多くの市民と体育団体、いわゆる八幡市体育振興会との出会いが、今日の一般社団法人八幡市体育協会と八幡市民との物語が続いております。

正に、出会いがあり唯今がある。

昭和43年に、八幡町民の「青少年の健全育成のためのスポーツ」「地域スポーツの振興」「競技力の向上」「町民誰もが参加できるレクリエーション活動」「学・社一体となったスポーツ活動」を柱に八幡町体育振興会が設立された。

第10回八幡市長旗争奪軟式野球大会の記念誌に掲載されている初代理事長の回顧録「八幡町軟式野球連盟こそは、町民スポーツ団体として大きな組織となった体育振興会の源流であり、かつ活力源でもある。」

この一文が発端になったとも思えるが、中々当時の関係者から体育振興会の具体的な活動などを聞き出せるまでには至らなかった。しかしこの体育スポーツの核になる組織が必要としていたことは間違いない。

八幡町の社会体育のスポーツ団体として一步踏み出し、大きな歴史を生み出した。この大きな歴史、言い換えれば各種体育団体を統括する体育振興会を生み出し、これが現体育協会の50周年を迎える、正に源流です。

体育振興会から体育協会に、更に法人化され一般社団法人となり現在に至っている。この間、昭和59年から何年かごとにSFA運動（Sport For All スポーツ フォア オール）、いわゆるみんなのスポーツ運動。全ての市民がスポーツを楽しみ交流し、よき汗をかき健康の維持、そしてこれらのスポーツ参加者を支援するSFA運動を提唱していく、これを冠として八幡市民総合体育大会が開催され、年々多くの市民の参加者が増え続けていることは、まさしくSFA運動の成果ともいえる。この参加者の分布を見ていると、スポーツ少年団から家庭婦人、シニアまで幅広いものがあるが、ここに来て少年団も更に低年齢化しキッズスポーツとして就学前までの広がり、シニアも単にレクリエーションとしての楽しむスポーツだけに留まらずピュアスポーツ、競技スポーツ分野にまで高齢者が参加している

ことこそ、正に生涯スポーツ、生涯現役時代の到達です。

しかし、体育振興会から体育協会への改組、移行時に提唱された「青少年の健全育成のためのスポーツ」「地域スポーツの振興」「競技力の向上」「市民誰もが参加できるレクリエーション活動」「学・社一体となったスポーツ活動」が果たして実践化されているか否かである。50年の大きな節目として振り返って、現在の各種目団体に求められていることを再点検する必要がある。これは構成団体のみならず、体育協会本体の取り組みへの点検が最も重要で、今改めてSFA運動の実践を求める必要があると思われます。八幡市民が求めている構成4団体及び体育協会本体そのものが、スポーツ体育の核となっているのか、魅力のある各団体に成長しているのかである。

体育協会の本部事業や構成団体の各種大会や行事に参加を求めて八幡市に多くの住民が住み続けたい、移り住みたいと、実感できる体育協会組織に成長願いたいものです。今ひとつ、学校外部の人材を学校職員に位置づけ、中学高校の部活動を任せる「部活動指導員」をこの度、国が制度化されました。冒頭に示した体育協会への移行時に提唱された「青少年の健全育成のためのスポーツ」「地域スポーツの振興」「競技力の向上」「市民誰もが参加できるレクリエーション活動」「学・社一体となったスポーツ活動」を一体的に総括し、この制度化された部活動指導員を学社一体の一環として、体育協会として取り組み、人材の養成を図っていただきたい。更に、SFA運動を展開するためには総合型スポーツクラブの本格的導入を再検討願いたいと願うものです。また、小学生の子どものときにスポーツ少年団との出会いがあり、スポーツの楽しさ、学校間を越えた多くの仲間との交流、社会体験等を、正に次代を担う青少年をスポーツを通して育成していく取り組み、「ともに汗を、そして明日へ」、このスローガンで生まれた少年少女が、スポーツ少年団とともに30年を経て、明日の八幡市を担える、支える中核者、青少年に成長しています。

八幡市民の健康維持、保持のために、先ず、汗かきを。

体育協会との出会いが50周年の唯今であり、この物語は市民とともに更に続いて行きます。



一般社団法人 八幡市体育協会

構成団体